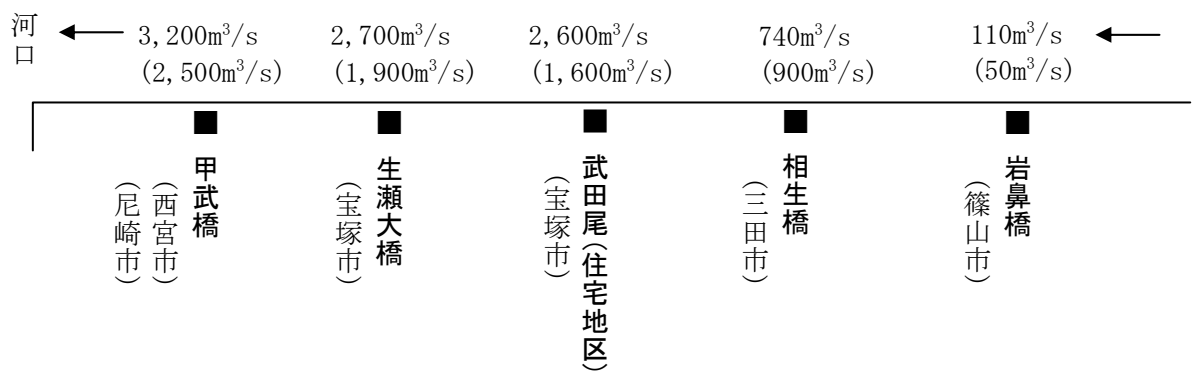


第 61 回流域委員会における質問への回答

主な内容	番号	質問・意見等	委員名	回答
下流部築堤区間の安全性向上が喫緊の課題であることに対する意見	1	平成 16 年台風 23 号の痕跡水位縦断図のカラー版を次回流域委員会で配布して欲しい。	岡田委員	「武庫川水系河川整備基本方針（現況流下能力に関する資料）平成 19 年 11 月」（配布済み）に掲載しています。なお、当該資料は以下のホームページからもご覧になることができます。 <武庫川流域委員会 ホームページ> http://web.pref.hyogo.jp/hn04/hn04_1_000000070.html
支川の河道対策	2	天王寺川・天神川の横断図が 3 面張になっていることの実確認をして欲しい。	土谷委員	天王寺川・天神川は昭和 30 年代にいわゆるコンクリート 3 面張の河川改修を実施しましたが、改修から 40 年余りが経過し、近年、コンクリート等の老朽化により堤防からの漏水が確認されています。 当該区間は周辺地盤よりも河床面が高い天井川であり、堤防の漏水対策は急務となっています。そこで今次整備計画では、堤防からの漏水を防止するため、堤体及び河床を遮水シートで被覆しその上にブロックを敷設する工法を採用することとしています。 なお、今回は環境にも配慮して、河床及び法面に土砂が付着し植生が活着しやすい連節ブロック（土砂が溜まる隙間のあるブロック）を選定しました。
目標流量	3	事業実施箇所以外の中上流部における、代表的なところでの通過流量を提供して欲しい。	奥西委員	【昭和 36 年 6 月 27 日洪水に対する河道分担流量※】 下段括弧書きは現況流下能力（整備済区間は整備流量） ※流域対策（学校・公園・ため池）、青野ダム（洪水調節容量の拡大）、遊水地（武庫川上流浄化センター内用地）による洪水調節後の河道通過流量 
天然アユの調査状況	4	今年度実施したアユの春季調査結果について報告して欲しい。	田村委員	下記の理由から、位置情報を除く総視認数および、調査日を報告します。 (1) 武庫川のアユは、その総量が少ないことから、現時点では保全が必要であると考えている。 (2) このため、遡上・降下期におけるリアルタイムでの公表を避けたいと考えている。 (3) 武庫川漁業協同組合からも上記同様の趣旨の要望を受けている。 (4) 一方、流域住民の武庫川への関心を高めるうえで、アユの生息情報は有用なものである。 平成 22 年度調査視認数：[春季調査 5 月 14 日、18～21 日] 1074 個体 平成 21 年度調査視認数：[春季調査 5 月 11、12、14 日] 99 個体 [夏調査 8 月 17 日～20 日] 180 個体 [秋調査 9 月 28、30 日、10 月 1 日] 8 個体 ※なお、昨年度の調査結果については、武庫川ホームページ「みんなでつくる明日の武庫川」 (http://web.pref.hyogo.jp/hn04/hn04_1_000000069.html) でご覧いただけます。
減災対策の提案に向けた質問	5	(1) 平成 21 (2009) 年 8 月 2 日降雨の規模とパターン 8/2 (0 時～7 時頃) の降雨は、2009 年の武庫川水系の年最大降雨でしょうか。これより大きな降雨はありましたでしょうか。 また、8/2 降雨のパターンは偏りのあるものだったのでしょうか。 (7/31～8/2 の武庫川水系のテレメーター水位値や雨量（国土交通省「川の防災情報」提供のリアルタイム公表値）など一部は手元にありますが全体像がわかりません)	中川委員	(1) 平成 21 年 8 月 2 日 (0 時～8 時頃) の降雨は、武庫川水系及びその近傍の 36 観測所 ^{*1} の内、24 観測所 ^{*2} で年最大雨量を記録しました。 ※1 兵庫県河川情報システムにデータが蓄積されている県及び国が管理する雨量観測所。 対象範囲は流域界から概ね 3km 以内としました。 ※2 8 月 2 日の 0 時～8 時の間の 6 時間最大雨量が年最大値を記録した雨量観測所。 8/2 の降雨は、中流部周辺（裏六甲河川：有馬川、船坂川、名塩川、逆瀬川）に集中しました。

主な内容	番号	質問・意見等	委員名	回答
		<p>(2) 8/2 の水位・流量 過去の規模と比較する手がかりにしたいので、生瀬地点や甲武橋地点等での水位や流量の値があれば提供下さい。 8/2 が年最大でなかった場合には、年最大時の水位・流量も（あれば）提供下さい。</p> <p>(3) 避難における課題 武田尾地区住民の方々の避難における課題を把握していれば、理由を教えてください。（例えば、「勧告が出たことは知っていたが大丈夫だろうと思った」「勧告が出たことを知らなかった」「夜が明けてから避難しようと思った」「自宅2階に避難した」等） また、避難所への避難状況（避難者数等）を教えてください。</p> <p>(4) 大きな降雨 平成16(2004)年23号台風以降での、最大流量となったのは2009年8月2日でしょうか。それとも他にあるのでしょうか（あるいは近似の流量規模の降雨の有無）。 また、その時の避難勧告等の状況（発令、避難状況等）がわかればあわせて提供下さい。</p>		<p>(2) 平成21年8月2日の洪水は生瀬及び甲武橋地点における年最大流量です。 甲武橋地点：水位2.6m、流量1,145m³/s（水位流量換算は、既往洪水の流量観測によるHQ式に基づく） 生瀬地点：水位3.1m、流量1,144m³/s（水位流量換算は、H21年8月流量観測によるHQ式に基づく）</p> <p>(3) 平成21年8月2日の洪水当日、武田尾地区現地に対応しておりました宝塚土木事務所及び宝塚市の職員から、当地区の避難の状況について以下のとおり聞いております。</p> <p>武田尾地区の避難所となっている武田尾公会堂は、武庫川沿いに店舗・家屋が並ぶ集落から山側に位置しています。 平成21年8月2日ですが、武田尾地区の高齢者のみの世帯やひとり暮らしの高齢者等の方々については、避難行動に時間を要するため、自治会や消防等で声をかけて、優先的に避難所まで避難いただきました。その他の住民は自己判断で避難いただきましたが、当日の最高水位は午前5時40分に3.96mであり、パラペット天端から2m以上は下であることが目視できましたことや、降雨が弱まりつつある状況であったため、住民の多くの方は避難するタイミングを見計らっていたものと思われます。 また、消防本部と現地にいる消防職員や消防団員との連絡や、市広報車、また宝塚市安心メール（ひょうご防災ネット）等により、避難情報の伝達体制はとられていました。 武田尾地区の住民のうち避難された方とされない方がおられましたが、上記から避難判断に必要な情報は得られていたものと考えています。 なお、8月2日の避難所への避難者数は、武田尾地区25世帯63人中、最大14人でありました。</p> <p>(4) 平成16年台風23号の後から現在(平成22年6月22日)までの、最大流量発生洪水は、甲武橋、生瀬共に平成21年8月2日洪水です。</p>